

政治資金残りあと

87,928円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

前回までの残高	120,076円
印刷代（ビラ印刷代）	22,185円
交通費（駐車場、高速代）	2,100円
雑費（ラベル、CD-R代）	2,751円
通信費（携帯電話代）	4,632円
勉強会会場費差額	-150円

市政を考える

月刊武松

発行日

99/11/1

第6号

たけまつ ただし

頒布責任者：武松 忠

武松政策研究会

市民と行政の意思の疎通！？ こんなはずではなかった！

行政の仕事の中で重要なものに説明責任があります。色々な委員会に出席する様になり多くの事例を聞いてみると、図面では説明してあったのに「できたものが違うのではないか？」とか、防災対策など専門家が重視しているものと市民が要求しているものがずれている等ありました。

事例を挙げてみますと

■電線地中化事業

・市民

電線地中化をすれば、電柱や電線が無くなり狭い道路が広々とするだろう。（国道1号線の市民会館付近の電線地中化のように広々となるだろう。）

・事前説明

平面図で、道路上に変圧器の箱が設置されると説明を受ける。

・工事後

電柱より邪魔だ。こんな箱がいくつもできるとは思っていなかった。

この例は、市民と行政でしたが、行政と業者間でも同様のことが多かれ少なかれあると思います。

こういった勘違いを防ぐには、中間部門である行政の能力を上げなくてはなりません。

市役所内を回ってみますとコンピュータは、各課1台の普及率にも関わらずドラフター（図面台）もありません。

*CADシステムを導入しろとは言いませんが、パソコンCADレベルで十分な機能を果たせます。実際に

大手ゼネコンの図面は、パソコンCADでネットワーク化され、業者との図面のやりとりも全てEメールでやっています。図面を基に、立体化した絵も描くことができます。*CAD：電子化された図面

■地震対策

・防災訓練や講演会（専門家）

建物の耐震性を上げることが一番重要だ。

・市民

正確な情報を流してくれ。情報が一番心配だ。

・行政

建物の耐震性を上げることが、一番の地震対策なのに、市民に何度説明しても、どうして情報に偏ってしまうのだろうか？

これは、行政が市民に求めていることと、市民が行政に求めていることの相違であって、行政としては耐震性を上げることが重視しつつ市民には、情報は充分に対策を打ってあると説明できなければなりません。

阪神淡路大震災では、焼死者が多数でしたが、先のトルコと台湾の地震の場合は、明らかに耐震性の弱い建物の倒壊による圧死ばかりでした。具体例を明確に適当な時期に説明する様にしなければなりません。

このように行政に求められている能力は、いかに市民に分かりやすい絵（イメージ）を提示できるかで。お互いの頭の中のイメージが一致していることは、ほとんどありませんから、具体例をどれだけ示せるかが大切です。

市民参加？

行政への市民参加の形として、色々な審議会や委員会に市民代表や関連団体の代表が参加してきます。委員の男女比率は、悪くても7対3程度になっており、年齢層は、ほとんどが50代後半から60歳以上になっています。

男女比や年齢層のことはともかくとして、介護保険事業計画等策定検討委員会を例にとると、3回の傍聴の範囲では、一言も意見を述べない委員がいます。

委員の報酬は、日額（2時間）で、1万円です。

関連団体の代表の委員であるのに意見も述べずに座っているだけなのです。

実際の審議も、ほとんどが行政が提出した資料に対する質問や注文ばかりで策定委員会としての機能を果たしているかという疑わしいものがあります。

介護保険法に策定委員会で審議すると定められている以上実施しなくてはならないのですが、本来の目的を果たしていないと感じました。

いい改善案が浮かんでこないのも事実ですが・・・。

総選挙前の自公に思う

総選挙がいつになるか、確定していませんが、介護保険の利用者負担について、法律上10%負担としていたのにも関わらず、3%にしようとか、保険金の徴収時期を遅らそうとか、責任ある厚生大臣までもが発言しています。

第2号被保険者（40歳から64歳）の保険料は、所属する健保組合や国保により金額が異なり、かつ40歳の誕生日を迎えた翌月からの保険料徴収となりますのでプログラムの変更等が必要になってきます。ですから、企業や国保の保険料徴収担当部署は、非常に

困惑しています。

一方、従来、無料で介護サービスを受けられた人は、新たに保険料を払い、かつ利用サービスの10%負担となるためかなりの負担増になります。しかし今まで無料でサービスを受けられたことで既に恩恵を受けている訳です。

私を含めた、これから第2号被保険者になる世代は、24年間保険料を払いつづければサービスを受けられないのですから……。

総選挙前とは言え、責任ある人間の無責任な発言とそれを叩けない野党やマスコミに腹が立っている無所属議員の独り言でした。

The Voice 今までに頂いたご意見から

防災無線は、どんな基準で放送するのか？

鴨宮駅南口にて 50代 女性

小田原市の防災無線は、次の基準で放送されます。警報等の連絡は、県からFAXで送られてきます。

- ・地震時の自動放送：震度4以上（火事については放送無し）
- ・地震警戒宣言が発令された場合
- ・津波：警報が出たら放送
- ・光化学スモッグ：県より警報が出た場合のみ放送する。（オキシダント濃度：0.24 ppm以上）
- ・行方不明者：痴呆性老人、迷子等緊急を要するものは、地域を限定して放送
- ・防災訓練：地域防災の日及び防災訓練の際放送

個別防災無線の設置場所

市幹部、議員、消防団員、自治会長、老人ホーム、老健施設、無線の聞こえない地区（8世帯）

鴨宮駅南口の階段付近で中学生が煙草を吸っているが対処法はないのか？

鴨宮駅南口にて 50代 男性

まず小田原市の青少年相談センターで担当している状況を調べました。少年犯罪の中でも窃盗、障害、暴行、強盗などは警察が担当しています。補導員が地域を巡回する際も、知合いの青少年以外は声を掛けないようにしています。それにより新たな犯罪を生む可能性があるためだからだそうです。

青少年相談センター

人員：事務職 3名 相談員 1名

補導員 3名 週4日（6時間）小田原駅周辺、シティモール

青少年補導員 100名 愛のパトロール 12中学区 月2～3回夜

補導件数：年1000件（60%喫煙、40%怠学）

通報：中学生の場合 保護者と学校に連絡

高校生の場合 どこにも連絡せず本人説明のみ（法的根拠、医学的根拠）

連携：警察とは情報交換程度

相談件数：年間300件程度

環境浄化：テレクラ等看板撤去

武松政策研究会 今月はシンポジウムに参加し懇親会のみ行います。

テーマ：新市民会館建設のためのシンポジウム

「あったらいいなこんなホール」 商工会議所青年部主催

日時：11月20日（土） 18：15～20：00

場所：小田原市民会館 大ホール

参加費：シンポジウムは、無料

出欠席の連絡は、不要です。当日、直接現地に来てください。

終了後、懇親会（実費3000円程度）で新市民会館について話しましょう。

懇親会のみ出席の方は、20時に市民会館本館1Fロビーに来て下さい。

